

ウッドショックに関する二回目の電話調査を実施

ネットイーグル(株)

木造住宅のプレカットCAD/CAM大手のネットイーグル(株) (福岡県福岡市、祖父江久好社長) は第2回目のウッドショックに関する緊急電話調査の結果を公開した。この調査は8月2日から17日までの二週間にわたり実施されたもので、193社のプレカット工場から回答が得られた。今回の調査結果からは木材価格や在庫量、受注状況、稼働状況などに回復の傾向が見られ、ウッドショック収束に向けたプレカット業界の動向が浮き彫りとなった。

「Q1：ウッドショックの度合いはどうか？」では、「大きい」が67% (前回調査時74%)、「小さい」が28% (同24%)、「受けていない」が4% (同2%)となり、前回調査時よりも確実にウッドショックの影響が減少傾向にあることが分かった。

「Q2：現在の在庫量で何月まで持ちますか？」では、「ある程度調達」が54社(28%)と最も多く、次いで「既に不足」が42社(22%)、「9月」が29社(15%)、「10月」が25社(13%)、「8月」が14社(7%)の順となっており、前回調査から三カ月の間に在庫確保を行うなど何らかの対策を講じていたことが見て取れた。

「Q3：今後の在庫確保はどうか？(複数回答あり)」では、「全く入ってこない」が0社(0%)となり、「少しは入ってくる」が88社(42%)、「代替品で対応」が59社(28%)となっていることから、プレカット工場は材料確保に成功しており、かつ高騰した木材価格の価格転嫁ができていると見ることができる。

「Q4：ウッドショックはいつまで続くと思いますか？」では、「年内(12月)」が49% (前回調査時37%)のほか、「来年まで」が5% (同3%)、「半年」が3% (同3%)と推移しており、ウッドショックの収束が見え始めたと言える。

「Q5：現在の木材価格はどのくらい値上がりしていますか？」では、上位から「2倍」が40% (前回調査時36%)、「3倍」が31% (同2%)、「2.5倍」が5% (同0%)、「1.5倍」が5% (同16%)となっており、

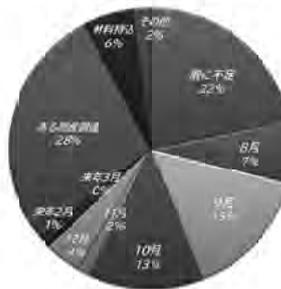
【1】 ウッドショックの度合いはどうか？



調査(2回目) 8月

大きい	130	67%
小さい	55	28%
受けていない	7	4%
その他	1	1%
Total	193	

【2】 現在の在庫量で何月まで持ちますか？



調査(2回目) 8月

既に不足	42	22%
8月	14	7%
9月	29	15%
10月	25	13%
11月	3	2%
12月	8	4%
来年2月	2	1%
来年3月	1	1%
ある程度調達	54	28%
材料待た	11	6%
その他	4	2%
Total	193	

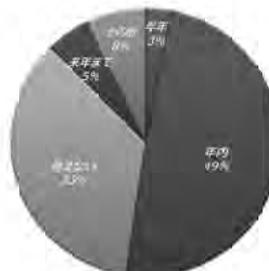
【3】 今後の在庫確保はどうか？(複数回答あり)



調査(2回目) 8月

全く入ってこない	0	0%
代用品で対応	59	28%
少しは入ってくる	88	42%
入ってきている	45	21%
材料待た	16	8%
その他	4	2%
Total	212	

【4】 ウッドショックはいつまで続くと思いますか？



調査(2回目) 8月

半年	6	3%
年内	95	49%
見えない	68	35%
来年まで	10	5%
その他	14	7%
Total	193	

【5】 現在の木材価格はどのくらい値上がりしていますか？



調査(2回目) 8月

1.2倍	2	1%
1.3倍	4	2%
1.4倍	0	0%
1.5倍	9	5%
1.6倍	1	1%
1.7倍	1	1%
1.8倍	3	2%
2倍	78	40%
2.2倍	1	1%
2.5倍	10	5%
3倍	60	31%
その他	24	12%
Total	193	

ウッドショックで高騰した木材価格は今後も高値安定傾向で推移していくものと見られる。

「Q6：見積案件の状況はどうか？」では、「変わらず」が58%（前回調査時49%）、「増えている」が36%（同43%）、「減っている」が6%（同7%）となっており、依然として住宅取得者の志向はウッドショック以前の水準を維持していると言える。

「Q7：見積有効期間は？」では、「1ヶ月」が53%（前回調査時54%）と最も多く、「2ヶ月」は0%（同1%）となったが、「時価」が17%（同12%）に増加しており、依然としてウッドショック下における営業マンの苦勞が伺える。

「Q8：新規受注の制限をしていますか？」では、「断っている」が50%（前回調査時58%）、「受けている」が34%（同28%）、「条件付きで受けている」が7%（同10%）となっており、前回調査時と比べて、条件を設けずに新規受注に動き出すプレカット工場が少しずつ増えてきている。しかしながら、依然として既存顧客を守るために受注を制限しているプレカット工場が半数を占めており、今後の動向を注視する必要がある。

「Q9：プレカット工場の稼働率はどうですか？」では、「変わらない」が68%（前回調査時64%）と依然として最も多いが、50%～90%に稼働率を落としたプレカット工場は合計で11%（同17%）と減少、逆に110%～150%に稼働率を上げた工場は合計で19%（同12%）と増加しており、ウッドショックから回復基調にあることが見て取れる。

「Q10：今後のプレカット受注をどう考えていますか？」では、「今まで通り」が46%（前回調査時30%）となり、「予想できない」の28%（同42%）を大きく上回った。加えて、「増加する」が13%（同7%）となっており、ウッドショックから脱したプレカット工場が増えたと見る事ができる。また、「顧客の見直しを検討」が0%（同17%）に転じたことについては、情勢変化に対応するため体制の見直しを図った工場などが、一定の成果を出した結果と見る事ができる。

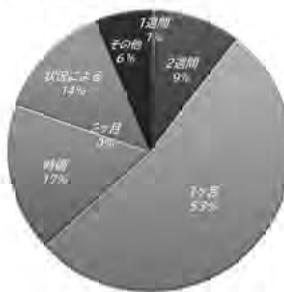
今回の調査結果を振り返ると、ウッドショックは収束傾向にあると言える。しかし既にアメリカでは木材価格の暴落が始まっているため、これが日本の木材市場、ひいては住宅産業にどのような影響を今後もたらすのか注意深く見守る必要がある。

【6】 見積案件の状況はどうか？



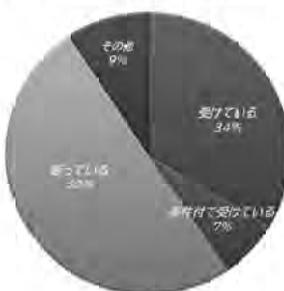
調査(2回目) 8月	
増えている	69 36%
変わらず	112 58%
減っている	11 6%
その他	1 1%
Total	193

【7】 見積有効期間は？



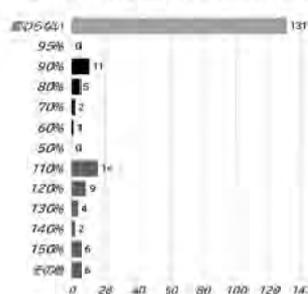
調査(2回目) 8月	
1週間	2 1%
2週間	18 9%
1ヶ月	102 53%
2ヶ月	0 0%
時価	33 17%
状況による	26 13%
その他	12 6%
Total	193

【8】 新規受注の制限をしていますか？



調査(2回目) 8月	
受けている	65 34%
条件付きで受けている	13 7%
断っている	97 50%
その他	18 9%
Total	193

【9】 プレカット工場の稼働率はどうですか？



調査(2回目) 8月	
変わらない	131 68%
95%	0 0%
90%	11 6%
80%	5 3%
70%	2 1%
60%	1 1%
50%	0 0%
110%	16 8%
120%	9 5%
130%	4 2%
140%	2 1%
150%	6 3%
その他	6 3%
Total	193

【10】 今後のプレカット受注をどう考えていますか？



調査(2回目) 8月	
増加する	25 13%
今まで通り	89 46%
縮小する	19 10%
顧客の見直しを検討	0 0%
予想できない	55 28%
その他	5 3%
Total	193